

# 自主公開授業研究会(提案授業) 3年A組 国語科授業リフレクション

平成25年5月24日(金) 授業者 佐藤 繁

## 1 授業の振り返り(授業者:佐藤 繁先生)

今日の題材は教頭先生と一緒に探してくれたものです。基本的に詩というのは、パーッと読んだときに、グーッと感じるものもあれば、スーッと抜けていくものもある。だけど、奥底にあるものは、作者の深い思いであったり、一字一句、魂を込めていたりすることを感じとってもらうために「月夜の浜辺」という詩を題材にした。その中で、子どもたちはよく頑張っていた。心配なメンバーが何名かいたが、そのメンバーがしっかり体を起こして、よく考えていた。その姿勢が一番私にとって良かったところです。

この授業を打つに当たって、1時間ではきついなと感じたのが何点かあった。例えば、生徒の声をゆっくり聴いて、返して…というふうにはできなかった。もう少し生徒の声をつなぎながら、子どもたちから疑問の声がふっと出てくるようにしたかったが、それができなかった。メインの「ボタンをなぜ捨てられなかったのか」というところで、生徒がいろいろな発想をしてくれたのが非常に良かった。

## 2 研究協議(参観者から:割り当て班,教科) 司会:波照間香織(研究主任,数学)

司会:では、これから研究協議を始めますが、「どこで学びがあったか、どこで躓いていたか、この授業から学んだことは何か」という視点で、全員に発言してもらいます。どなたからでもかまいませんが…。では、津波古先生からお願いします。

### (1) 津波古健先生(1班:音楽)

口調が強烈な女子と、物静かな男子の組み合わせのグループ。国語や各教科にとらわれず、様々な状況で「学びの共同体」が行われながら学校生活を過ごしている。生徒も職員も、取り組みの成果でしょうか?

司会:同じ班を見ていただいた敏也先生お願いします。

### (2) 東江敏也先生(1班,社会)

佐藤先生の授業は、とても落ち着いていて勉強になった。特に感心したのは、生徒の考えを他の生徒がわかりやすいように言い換えていたところ。私が担当したのは、O君、Jさん、Yさん、K君のグループ。主に女子を中心としたグループ活動が展開されていた。共有の学びのところでは、Yさんがわからない語句を辞典で調べ始めた時、Jさんも指を差しながら共に探すという行動が見られ、こういう場面でも協同の学びが発生するのだと感じた。そして、作者の心を違う詩から読み込むときにグループの生徒が、必死になって読み取ろうとするところに、言葉を発していなくても学びが発生するのだと思った。

司会:次にどなたかいませんか?…はい、司先生お願いします。

### (3) 比嘉司先生(3班,保健体育)

3班を観察していましたが、NさんがY君にいろいろ確認しながら授業しているところに今日の授業だけでなく、日頃の授業に学びがあるのだと思った。グループ活動になって詩の文脈を話し合うのではなく、読めない漢字、意味の分からない漢字を一生懸命調べていて、「ん〜」と思っている中にもT君がジェスチャーを交えて教えているところに学びがあったように思えた。一番印象に残ったのは、2枚目のプリントを配った時に3班全ての生徒が、文脈を理解しようとしているところがすごくよかったと思った。

司会:同じ場所で見えていた佳穂先生お願いします。

### (4) 吉武佳穂先生(3班,理科)

NさんとY君は、題材に出会ってすぐに読めない漢字や感想についてぼそぼそ話をしていた。班活動の時は主に分からない言葉について、Aさんが辞書で調べながら全員で学んでいた。「30歳で死んでる」というAさんの気づきから想像が広がっていた。Y君の発表やT君と先生とのやり取りが見えたので、それを勇気を持って話し、共有できたら一人ひとりの考えが深まったと思う。また、T君は、「ボタンがきらきら光っていたから、捨ったんじゃない」という自分の考えと同じ内容を発表したK君の意見に身を乗り出して聴くほど、興味を示していた。

司会:話したいことはたくさんあると思いますが、話は1本に絞ってお願いします。今、K君の話題が出ましたので、K君の班を見ていただいた直人先生お願いします。

### (5) 松田直人先生(5班,社会)

4名中3名が非常に活発な意見の交流を行っていた。最初の詩においては、方向性が見い出せなかった分、色々な意見が出たが、2つ目の詩においては方向性が見えて中味の濃い学びがあった。Yさんは、1度3名から声かけがあり意見を求められたが、分からないと答え、後は意見を出すことはなかった。メモは全員が取っていた。

司会：同じ5班を担当した渚先生お願いします。

(6) 比屋根渚先生(5班, 英語)

活発な話し合いが行われている班であったが、Yさんは一言も話すことはなかった。しかしながら、一生懸命3人の話を聞きプリントに書き込みを行っていた。2枚目の詩が配布された後、R君が「亡くなった子どもによくボタンをつけていたことを思い出したんじゃない?」と言い、Aさんが「なるほど～」と納得した様子だった。最後には右下に記載されていた筆者の生きた期間を見て、この人の人生についても考え合っていた。

司会：私も5班を見ていたのですが、Yさんはグループ活動では一言も発言せず静かに聴いていた。授業後半ではR君が「Yさんはどう思う?」とYさんに声かけをしている場面があった。Yさんはそれでも自分の考えを話すことはできなかったが、3人の学び合いをしっかりと聴いていて4人で学び合っている雰囲気があった。

司会：どなたか?…はい、紀子先生おねがいします。

(7) 與那嶺紀子先生(2班, 家庭科)

笑ったり脱線しそうになったりしながらも、お互いに注意し合いながら教え合っていた。Eさんが、2つめの詩で、みんなに見やすく持って朗読をしてくれた。読みながら、『動物の話?』と言うと、『動物園って動物を連れて行って良いんだっけ?』という話になり、そこで繁先生が『動物園は誰と行くの?』と声をかけると、全員で『あっ!!』という顔になり、『子どもの事を思い出しているのかも』とひらめいた様子だった。そこからは、どんどん話が進んでいった。

司会：同じく2班を見ていた尚幸先生お願いします。

(8) 稲嶺尚幸先生(2班, 理科)

教師の何気ない一言に反応し、辞書で調べたりしていた。友達の一言にも反応し、しっかりと意見を交換していたように見えた。少しだけ笑いなどが起こったが、自分たちで修正していたのがとても印象的だった。

司会：今日は、1点に絞って話してほしいと思います。正乃先生お願いします。

(9) 伊藝正乃先生(4班, 国語)

K君が中心となり、学び合いを進めていた。「なぜ、ボタンが捨てられないのか」という発問に対し、K君が「沁みた」という言葉に注目し、「ジュワー」と心まで沁みたから捨てられないのでは」と発言した。それに対しS君も「そうかな」と答えていた。言葉に注目して捨てられない理由を考えていた。Aさんは一言も発しなかったが、男子二人が、Aさんのワークシートをのぞきこんだりしていた。また、Aさんも、男子の顔を見て、話を聴いていた。

司会：同じ4班を見ていた靖先生お願いします。

(10) 渡慶次靖先生(4班, 社会)

授業者が「波打ち際って?」の問いかけに、S君が「波がパシャッて鳴るところじゃん!」と彼なりのことばで表現していた。グループ全体が長く沈黙していたが、T君の発言で控え目なAさんが「ふっ」と微笑んだ場面があった。思考が停滞していたわけではなく、一人一人がしっかりとテキストと対話していたことが表情やつぶやきから見取ることができた。先ほど出た無口なAさんは、隣の班のKさんが「失恋した時じゃない」と言うのを聴いて微笑んでいたもので、ちゃんと聴いているんだなと思った。

司会：グループ以外の声をしっかりと聴いていたのは、グループを越えた学び合いだと気づいたと思うんですが、そういう視点でどなたか?…康平先生お願いします。

(11) 神山康平先生(6班, 数学)

班活動では終始、S君⇒Mさんで始まりNさん、A君は聴きながら頷いている状態。なぜボタンを捨てられないのか?という発問に対してもS君、Mさんでの話し合い、Nさんは頷いている。A君はずっと与えられたボタンをいじっていて、班活動に入れてないのかなと思ったが、ふとした時に「ボタンが捨てないでと言っているように感じたんじゃないのかな?」というつぶやきから班の意見が進んでいった。彼は話し合いに参加しなかったのではなく教材と向き合っていたんだとわかった。

司会：最後に教頭先生お願いします。

(12) 久高利美子先生(6班, 教頭)

他のグループは、二つの詩を関わらせて、課題について考えていたようだが、6グループは、その視点がなかなかできず、話し合いが滞っていた。普通の授業なら、先生の助言があるはずなのだが…。全体での意見交流の時間があったので、そこで6グループのメンバーははっと思ったようだ。A君は他のグループの友達の意見を聞いて、ストーンと落ちたようで、しっかりと自分の考えを整理して意見を言っていた。